

行事実施計画書に隠れた指導が教師を多忙にする ―実施計画書とインタビューから―

小島 博明

1. はじめに

最近、教師の多忙問題に関する報道は珍しくない。テレビ、新聞そして書籍等で教員の多忙問題を多く話題に取り上げているからである。その中でも憂慮すべきことは、教師の多忙問題が原因で東京都においては管理職である副校長¹への希望者が1.1倍と「なり手」が不足しているということであろう。副校長の仕事が他の教員のポジションに比べ、長時間労働の典型とみられブラック視されてきているからだという（諸富 2013）。さらに、若者の教員志望者が減少してきていることも再三報道されている。このことに関しては、志願者が定員の3倍を切った場合は教員の質が保たれなくなり危惧されると言及している（尾木 2007）。今、教育を支えてきた根本が揺らいできていと言っても過言ではないであろう。教育は国策としてこれまで国の重要基盤としての役割を演じてきたが、それがここに来て危ぶまれる事態になってきているのである。国としても「働き方改革」等を通して教師の多忙問題の解決を図ろうとしている。しかしながら、なかなかその改革の効果は現れず、このコロナ禍を機にさらに教師の多忙問題は加速しているようである。

そこで本論文は、諸学校行事をサブタイトルのように実施計画書と教員へのインタビューを通して教員の多忙問題にメスを入れ、問題点を摘出しようとするものである。松田（2011）によると教員の多忙問題の主要因として対外行事としての学校行事が挙げられている。しかし、具体的に一つの学校行事について言及された研究論文は管見の限り見当たらない。ただ、教員の仕事である学校行事を1つのカテゴリーとして一括して取り扱うのではなく、一つ一つの学校行事を見ていくことにより教員の多忙問題がよりはっきりと見えてくるのではないかと考える。

2. 学校行事計画書とインタビューの依頼先について

今コロナ禍の影響で学校は外部者の訪問を歓迎していない。また、県境を越えての学校訪問も控えなければならない。このような理由で訪問校を最小限の3中学校にとどめるとともに、筆者にとって身近にある学校を選択した。よって学校は全て同県内の中学校で、大規模校、中規模校そして小規模校からそれぞれ1校選出した。しかし実際は、学校を訪問し資料を頂いてくるつもりでいたところ、3校全部から学校行事計画書を郵送してもらったため学校訪問をする必要はなかった。また、インタビューについても、コロナ禍の件を考慮し、インタビューをお願いした先生とは電話で話した。なお、今年度はコロナ禍の影響で学校行事の中には中止や簡素化が相次いで行われたことを踏まえ、令和元年度以前の諸学校行事計画書を送ってもらった。

3. 行事实施計画書の検討

3-1 校内少年の主張発表会

少年の主張全国大会は令和2年度で42回を迎えるという。このような歴史のある全国大会まで繋がる大会なのでどの学校でも校内大会を持ち、そこで学校の代表者を決定する。そしてその代表者が勝ち抜いていけば地区大会、県大会そして最終的には全国大会へと進む。このように学校行事でも最も定番である校内少年の主張大会を先ず見ていくことにする。ただし、教師が多く関わると思われる事項のみ抽出して下記に記載する。

表1 (A中学校校内少年の主張発表実施計画) より抜粋

平成30年度 校内少年の主張発表会実施計画		国語科
5	事前の準備	
(1)	意見書の執筆……………6月11日(月)まで	
(2)	学級代表者の決定……………6月22日(金)まで	
(3)	国語科による指導(3時間)	
	・テーマ設定、書き方……………2時間程度	
	・学級代表者の選出(学級予選会)……………1時間程度	
(4)	発表者の打ち合わせ(リハーサル)は学年ごとに行う。	
	・1年担当国語科教諭……………()先生	
	・2年担当国語科教諭……………()先生	
	・3年担当国語科教諭……………()先生	

表1のA中学校校内少年の主張実施計画書を見ると、計画者は「国語科」と書いてあるので国語の先生方であることと共に、国語の先生方が関わる活動は主に事前の準備であることがわかる。具体的には、国語科の先生はテーマの設定と書き方等について2時間程度指導し、6月11日（月）までに生徒に意見書の執筆を終了させる。そして6月22日（金）までには学級予選会を国語の時間に設け、学級代表者を決定しなければならないということである。10日ほどの期間に通常の授業をしながら特別に少年の主張のために予定では3時間ほどの時間を校内少年の主張のために割愛し、学級代表者を決定するわけである。そこで、その辺のご苦勞をインタビューで聞いてみた。

A先生：確かに学級代表を決めるまでは期日が決まっているので、期日を守らなければなりませんからその点気を遣います。意見書の執筆締め切りについては生徒も承知しているわけで、学級発表会までにはどの生徒も各自の意見書の執筆を終えていることになっているのですが、中にはその時になっても終了していない生徒がいます。このようなわけで、思ったようには進まず学級発表会は予定をいつもオーバーしてしまいますね。1時間ではとても終わりません。2時間ないしは3時間かかってしまいます。ところで、苦勞している点というご質問ですが、実は少年の主張大会で一番大変というか時間がかかるのは、校内少年の主張発表会が終わってからなのです。というのは、校内大会で各学年に1名の優秀生徒は決まりますが、地区大会への参加者は3年生ですね。そして、その代表生徒への指導が一番時間かかります。代表生徒の発表原稿を再度見直しリライトして、今度は地区大会へ向けていわゆる特訓をするわけですよ。学校によりまたそれぞれの先生によりそのやり方はまちまちですが、代表生徒に地区大会でいやな思いをかかせないように、また、本校の代表としてふさわしい発表になるように特別指導をするわけです。私は校内大会から地区大会の間、朝練をします。15分から20分間です。昼休みと放課後にやる先生がいますが、私は昼休みと放課後は何かと忙しいから朝やることにしています。基本的には代表生徒を普段授業で指導している先生がその指導に当たりますが、たまには別の学年の国語科の

先生に見てもらうこともあります。この朝練が大変だといえは大変ですね。

以上のインタビューに見るように、国語科の先生方に負担がかかるのは、校内少年の主張大会それ自体もさることながら、それ以降の代表生徒への指導だという。対象生徒は一人であろうと大勢であろうと朝練をする場合はその分家を早く出てくる必要がある。このように、自分が指導する生徒が学校代表になるのはうれしいことだが、その反面指導担当者になるため朝練や昼練、さらには放課後の練習をせざるを得ないわけで複雑な思いをするのであろう。

3-2 校内英語スピーチ学年選考会

今度は校内英語スピーチ学年選考会を見ていくことにする。表2のB中学校の校内英語スピーチ学年選考会実施計画を見ていただきたい。B校の校内英語スピーチ学年選考会は学年選考会ということで、表1 A中学校校内少年の主張発表会のように全校生を体育館に集めて学校代表1名を決めることはしない。その代わり、放課後多目的教室に1年から3年までの参加希望者が集まり、各学年代表1名が決定される。地区中学校英語スピーチコンテストが学年ごとに審査されるからである。

表2 (B中学校令和元年度校内英語スピーチ学年選考会実施計画書)より抜粋

令和元年度校内英語スピーチ学年選考会実施計画	
4	準備等
(1)	スピーチ原稿について テーマは自由とし、夏休みの課題とする。
(2)	参加について 参加は生徒の希望とするが、各学級最低1名の参加者が出るよう配慮する。
(3)	学級内英語スピーチ発表会について ・夏休みの課題確認のためどの学級も学級内英語発表会を9月6日(金)までに実施し、より多くの生徒が校内英語学年選考会に参加するよう促す。
5	地区中学校英語スピーチコンテスト ² 代表生徒への指導 各学年の代表には、それぞれの生徒のクラス担当先生がALTと共に指導するものとするが、基本的には英語科教員全員で指導する。

英語スピーチコンテストは英語版少年の主張とも言うべき行事である。従って、A中学校のA先生のインタビューから明らかなように、代表生徒選出後の代表生徒への指導が先生の労働負担になっているのではないかと予想される。B中学校の表2（令和元年度校内英語スピーチ学年選考会実施計画書）には、5生徒代表への指導のところに地区大会参加生徒への指導は、それぞれの生徒のクラス担当先生とALTが指導するものとするが、基本的には英語科教員全員で指導するものとする、と書いてある。英語の場合、担当先生だけでなくALTが代表生徒の指導に加わるというのが少年の主張の代表生徒への指導と異なる点であろう。そこで、ALTによる代表生徒への指導をどのように感じているかも含めて、英語スピーチコンテスト全般についてB中学校の英語の先生にインタビューした。

B先生：本校では英語スピーチコンテストに関して基本的な考えがあります。それは校内英語スピーチ学年選考会への参加はあくまでも生徒本人の希望ということです。各クラス1名以上の参加ということなので、自分の担当クラスからどの生徒も参加しないということも考えられます。ですから学級内英語スピーチ発表会で良いと思われる生徒には一応声をかけ、参加するよう促しますがそれ以外の生徒でもOKというようにしてあります。実は、代表生徒は地区大会のために1ヶ月以上の練習をします。このように本人自身の負担が大きいです。スピーチコンテスト参加はあくまでも本人の希望にしています。もし、県大会まで行くとなるとだいたい県大会は11月中旬ですので、さらに1ヶ月の練習期間が加算されます。本人はさることながら親も朝早く子どもを登校させなければなりませんから大変だと思います。それに勿論我々も代表生徒の指導担当になると大変です。1ヶ月ないしは2ヶ月以上代表生徒の指導に当たらなくてはならないからです。だいたい毎日朝練を20分くらいします。さらに放課後も練習です。放課後の練習はALTが来ているときはALTに指導をお願いしていますので、放課後は少し以前よりは楽になりましたが、朝練をALTにお願いするわけにはいきません。学校によりこの辺のやり方は様々だと思いますが、基本的には我々英語教師が代表生徒の指導をやるということです。

上記のB先生のインタビューを見ると、やはり校内英語スピーチ学年選考会で代表生徒が決定した後に、指導が本格化し担当先生の労働負担が増加していることがわかる。当校の職員出勤時間は8時である。毎日朝練に20分程度を当てているということは、代表生徒の指導担当の先生は7時30分頃には学校に出勤していることになる。これは明らかに時間外勤務である。どの学校の英語教師も地区大会や県大会へ参加させるのであれば、それなりに練習させてできれば良い結果を残したいという思いがあるだろう。英語スピーチコンテスト地区大会は言わずもがな県大会も、結果は地方新聞に掲載されるということであるから結果にこだわる先生もいて不思議ではない。しかしながら、英語スピーチコンテストが、まるで参加生徒の優秀さを競うことよりも、英語の先生とALTとの指導力を競う場であるかのようにならないように節度を持って運営されることを祈念したい。

3-3 校内合唱コンクール

次に校内合唱コンクールを見ていきたい。学級の団結力が求められている今、合唱コンクールは何らかの形ですべての中学校にあると言って過言ではない。また、級友との思い出ベストワンに合唱コンクールをあげる生徒が多いとC中学校の音楽の先生が話してくれた。

表3（C中学校合唱コンクール実施計画書）より抜粋

令和元年度 C中学校合唱コンクール実施計画書	
5 審査方法	最優勝賞のクラスは、11/5(火)の地区小・中学校音楽発表会 ³ に出演する。
9 音楽室・体育館使用計画について	
①	音楽室と体育館を使用した練習は、通常の帰りの会を30分に延長(帰りの会10分+合唱練習20分)して実施。割り振りについては、後日提示予定。
②	10/8(火) 5校時：1年プレ合唱コンクール 6校時：2年プレ合唱コンクール 10/9(水) 6校時：3年プレ合唱コンクール
③	朝練・昼練を行う場合は、担任監督のもと教室で行う。時間は朝7:20~7:55まで、昼連は5校時開始5分前のチャイムが鳴る前に終わりにする。

表3のC中学校合唱コンクール実施計画書より合唱コンクールも地区大会への参加を兼ねた校内予選会だとわかる。下記のインタビューをお願いしたC先生によると、地区小・中学校音楽発表会への参加については、各学校により様々だという。特別に参加希望を募り、そのグループで練習し参加する学校もあり、また学校によっては既存のクラブ活動のメンバーで参加するところもあるという。しかしながら、C中学校のように校内合唱コンクールも地区大会への参加を兼ねた校内予選会の方が、学校規模により既存のグループがない場合には効率的であろう。さらに、C中学校合唱コンクール実施計画書には音楽室・体育館使用計画や朝練・昼練、さらにプレ合唱コンクールの計画もある。この点について、ベテランと思われる音楽の先生であるC先生にインタビューをお願いした。

C先生：10年以上くらい前までは、朝練とか昼練の計画はありませんでした。クラス内で朝練をしようと決まると、各自の教室を使ってそれぞれに練習しました。ですから、そういうクラスの担任は早朝に出勤するわけです。職員出勤時刻の30分前頃には来ていたと思います。考えてみると、今も早い出勤時刻は変わりませんね。ただ、違うのは今どのクラス担任も朝練をしていることが全職員に承知されていると言うことです。昔は該当担任だけがやっていたので多くの先生はそのことを知らなかったのではないのでしょうか。

小 島：昔と比較してプログラム上は何か違いはありますか。

C先生：そうですね。大きな違いは合唱コンクールが簡素化されたことでしょうね。以前はどのクラスも課題曲と自由曲の2曲を歌いました。でも今は、だいたいどの学校でも自由曲1曲を歌うだけでしょう。しかも自由曲と言っても、すでに合唱曲としてふさわしい曲を総クラス数以上用意し、その中から選択してもらうようにしています。以前は、全く自由に選曲していたため、合唱曲としてふさわしくないようなものもあり、その場合は私ども音楽の教師が合唱曲に直したこともありました。かなり大変な作業だったわけです。

小 島：現在、合唱コンクールで負担に感じていることはありますか。

C先生：そうですね。昔と違って今話したようにかなり合唱コンクールは簡素化されてきましたし、また朝練、昼練そして帰りの会の練習

などすべてが学校全体として計画されていますので、さらに今まで同様学級担任が大きくバックアップしてくれますのでこれと言っては…。しかしながら、生徒数が年々減少してきている現在、年度当初のクラス分けの段階でピアノを弾ける生徒を均等に各クラスに配置することができないのではないのでしょうか。今は時としてクラスに適切なピアノ伴奏者がいないことがあります。いてもあまり上手でなかったりする訳ですね。そういう場合は特別に私どもが伴奏者の指導をします。かなり大変ですね。本人の希望を聞いて指導しますが、朝練が多いと思います。本人やピアノのお稽古の先生に任せ放しにしておく訳にもいきませんから。

上記の表3並びにC先生へのインタビューから校内合唱コンクールに関しては、学校全体として先生方の全ての指導活動が見える化されており、さらに簡略されてきていて問題はなさそうである。しかしながら、表3の9③から分かるように、担任の先生方が朝練のために早朝より勤務せざるを得ない点においては、先に見てきた校内少年の主張発表会や校内英語スピーチ学年選考会と何ら変わりが無い。ただ、職員全体がそのことを共通理解しているだけの違いである。全職員が共通理解しているかそうでないかは重要なことであるが、これでは誰もが認めている時間外労働と言うことができるのではないだろうか。少年の主張や英語スピーチコンテストの学校代表生徒への指導のように個人的な生徒への指導と違って、全生徒、全教師が関わる校内合唱コンクールにおいては全ての指導が見える化しておくというものであろう。それにしても、教員の多忙が叫ばれている昨今、このようことが看過されていて良いものであろうか。

4. おわりに

本論文で、諸学校行事の中から校内少年の主張発表会、校内英語スピーチコンテスト並びに校内合唱コンクールの3点をそれぞれの行事計画書とインタビューを通して、計画書には隠れて見えないが教師の多忙に荷担している教師の仕事がないかどうかを検討してきた。その結果、合唱コンクールのように全生徒、全教師が関わる学校行事においては簡素化や先生方の全ての指導の見える化が確認できた。しかしながら、校内少年の主張と校内英語スピーチコンテストにおいては、大会で選出された代表生徒への指

導が実施計画書には具体的に言及されておらず、いわゆる見える化がされていないことが分かった。代表生徒の指導という個人指導であるので、その指導は担当教師に任せてあるのではないかと思われる。だが、A先生とB先生へのインタビューから分かったように、その指導は場合によって1ヶ月以上さらに県大会へ進となると2ヶ月以上もかかりかなりの負担である。よって、たとえ代表生徒への指導という生徒一人への指導であっても担当先生にとっては、指導期間が長くしかも勤務時間外労働だと言える。

翻って、たとえ校内合唱コンクールのように代表生徒への指導が計画書に記され、全教職員に周知されていたとしても、明らかに勤務時間外である出勤時刻前の朝練を全職員公認の元に実施されている事実をどう解釈したら良いのであろうか。もしも生徒が希望することだからと言う考えで教員の時間外労働を看過しているとしたら、いつになっても教員の多忙問題は解決しないように思われる。真に教員の多忙問題を解決するためには、児童生徒のためとは思っても勤務時間外のことであれば、できないとはっきりと言うことが教師に、そして学校に求められるのではないだろうか。また、地区並びに県の少年の主張大会や英語スピーチコンテストなどが、勤務時間内での練習で競われるような機運の醸成も求められるのではないだろうか。

註

- ¹ 「教頭」のことである。東京都などでは「副校長」のように呼んでいるところもある。
- ² 英語スピーチコンテストは県大会止まりであるが、高円杯全中学校英語弁論大会などは全国大会まである。
- ³ 合唱コンクールはほとんどが校内で完結するが、C中学校のように合唱部がない学校は全日本合唱コンクール地区大会などに、校内合唱コンクールでの優勝クラスが参加するところもある。

参考文献

- 1 尾木直樹『教育格差―ダメ教師はなぜ増えるのか』（角川書店、2007）
- 2 佐藤学『教師というアポリア』（世織書房、1997）
- 3 志水宏吉編著『教育のエスノグラフィー―学校現場のいま』（嵯峨野書院、1998）

- 4 松田茂利『学校の先生は休めない—子どもたちの声・教師の声』（光陽出版社, 2011）
- 5 松本良夫・河上婦志子編『逆風の中の教師たち』（東洋館出版社, 1994）
- 6 諸富祥彦『教師の資質—できる教師とダメ教師は何が違うのか？』（朝日新書, 2013）
- 7 由布佐和子編『教師の現在・教師の未来』（教育出版, 1999）
- 8 —「教師の多忙に関する一考察」『福岡教育大学紀要』（1995）